

第 71 回 美学学会 全国大会 (オンライン開催) プログラム草案

10 月 3 日

11:00～11:50	総会 (オンライン開催)		
11:50～13:20	昼休憩		
一般発表 13:20～15:30 1人 40分(発表 30分、質疑応答 10分)	音楽と音	芸術と文化	映画・映像
	オンライン1	オンライン2	オンライン3
13:20～14:00	西田敏子(九州大学): フーコー・リーマンの『音楽事典』にみる概念変容と隣接学問分野との相互作用 —和声理論を中心に—	佐藤紗良(東京大学): ヘネラーフェ庭園修復史におけるプリエト＝モレーノの役割 —トレス・バルバスとの比較を中心に—	李珂(リカ)(神戸大学): 劉呐哂の『現代映画』と映画出版の大衆的公共圏、
14:05～14:45	小寺 未知留(立命館大学): マックス・ニューハウスは何を「音楽」と呼んだのか	田嶋麗(実践女子大学): 「もどき」芸における嘲笑の考察	西橋卓也(神戸大学): 初期映画における粉の機能について —白人/黒人の人種的二項対立を超えて—
14:50～15:30	中川克志(横浜国立大学): 『Sound/Art』展(1984)のハース・ベクティヴ —(サウンド・アートとは何か)とは何か—	Jean Lin(東京大学): 文化的性質を含む作品の鑑賞における諸問題—文化的借用の議論をめぐり—	山崎みず穂(森美術館): ジャクソン・ポロックのシャドウ・サイトと湾岸戦争 —文化に植え付けられた他者の視線と権力/知からの脱却—
	田之頭一知(大阪芸術大学)	高安啓介(大阪大学)	前田茂(京都精華大学)
若手発表 15:50～17:30 1人 30分(発表 20分、質疑応答 10分)	美学1	美学2	美術1
	オンライン1	オンライン2	オンライン3
15:50～16:20	阿達佳子: ハイデガーの芸術論における裂け目(Riß)の概念について—伝統的形而上学との比較の観点から—	板野誠(東京藝術大学): 美的義務論における“Why be aesthetic?”という問い	池田 真実子(京都大学): 『傾向芸術』としてのオート・ディクス作品を問う —イメージによる社会的・政治的意味の揺らぎをめぐって—
16:25～16:55	常深新平(慶應義塾大学): モチーフと表象の何が似ているのか —メルロ＝ポンティにおける種性質の実在論—	児玉北斗(立命館大学): 2000年以降のダンス研究におけるネルソン・グッドマンのノーテーション理論 —争点としてのオートグラフィック/アログラフィック—	岩澤 龍彦(専修大学): 1920年代のハンネス・マイヤーの「集団(Kollektiv)」概念について
17:00～17:30	王 蓉(重慶大学): 今道友信の「超越」論に見る「東洋」と「西洋」	岡田進之介(東京大学): 想像的抵抗の問題について —物語参与の観点から—	松崎卓人(関西大学): ウォルター・リチャード・シッカート作『イングリッシュ・エコノミー・シリーズ』にみる特異性—世界大戦間期イギリス画壇におけるモダニズム概念をめぐる考察—
	杉山卓史(京都大学)	森功次(大妻女子大学)	池田祐子(京都国立近代美術館)

10 月 4 日

一般発表 9:30～11:40 1人 40分(発表 30分、質疑応答 10分)	彫刻論	音楽理論	
	オンライン1	オンライン2	オンライン3
9:30～10:10	中村泰士(バリ第一大学): 彫刻の再現空間と身体空間	杉山恵梨(大阪大学): 後期バロック音楽に関する理論書と研究書の邦訳書にみる古楽受容—1970-80年代を中心に—	/
10:15～10:55	藤本奈七(関西学院大学): ドガの競走馬彫刻からみる動きの表現	岡野宏(東京大学教養学部): マッテゾンにおける自然と技術の媒介としての「模倣」 —「カノンの解剖学」を中心に—	
11:00～11:40	諏訪園真子(お茶の水女子大学): 20世紀初頭の公共彫刻と「他者」 —サン＝マルソー『万国郵便連合記念碑』(1909)における大陸の寓意—	加藤幸一(University of Southampton): ニューミュージックの時代におけるフォー・マリズムの在り方 —ヘボコスキーのソナタ理論から—	
	三木順子(京都工芸繊維大学)	前川陽郁(大阪芸術大学)	
11:40～12:45	昼休憩		
若手発表 12:45～13:50 1人 30分(発表 20分、質疑応答 10分)	映像・演劇	現代美術1	現代美術2
	オンライン1	オンライン2	オンライン3
12:45～13:15	後藤孝典(関西学院大学): ジョン・ゾーンの作風形成におけるアメリカ前衛演劇の影響 —ゾーン/フォアマンによるオペラ『Astronome』を例に—	橋本結明(大阪芸術大学): 『具体美術協会』草創期における前衛書を受容	野崎裕(京都大学): 『聖オルランの再受肉』における聖遺物 —『聖骸布』の視点から—
13:20～13:50	佐藤佳弥(京都大学): ブルーノ・ムナーリの視覚実験について	李 珉旻(京都大学): ナムジュン・パイクにおける「アクション・ミュージック」の意味と重要性	飯沼 洋子(京都大学): 現代アート作品にみる布と自我の関係性 —リリア・クラークの作品を中心として—
	前田茂(京都精華大学)	平井章一(関西大学)	大島徹也(多摩美術大学)

	美学	美術史	
一般発表 14:10～16:20 1人40分(発表30分、質疑応答10分)	オンライン1	オンライン2	オンライン3
14:10～14:50	出村 民(大阪大学): 描写の再認識再考 —カテドラルに能力に基づき考察—	鎌谷 伶(東京大学): 戦後日本における同時代アジア美術の受容と冷戦 —1950～70年代を中心に—	
14:55～15:35	井奥陽子(東京藝術大学): 占術とノの美学—A. G. バウムガルテンにおける(千兆の記号術)の 構想とその補題—	松本理沙(京都大学): 1980年代のアクティヴィズム・アートにおけるコミュニティ概念	
15:40～16:20	足立恵理子(京都大学): 柳宗悦における神秘主義の民藝論および仏教美学への影響	若名映香(筑波大学): J. W. ウォーターハウスの《アポロとダフネ》に関する考察	
	秋庭史典(名古屋大学)	竹中悠美(立命館大学)	
若手発表 16:40～18:20 1人30分(発表20分、質疑応答10分)	音楽	美術2	
	オンライン1	オンライン2	オンライン3
16:40～17:10	中村 将武(東京大学): アナログメディアのリバイバルにおける「ハイ・ファイ」と「ロー・ファイ」	阿部桃子(東北大学): ジャン・バプティスタ・ティエポロの描法と主題へのアプローチについての一考察—レンブラント作品からの影響分析—	
17:15～17:45	石井明加(東京大学): もう一人の「ドイツ的」作曲家 —W. ニーマンによる伝記で描かれたブラームス像—	大槻朋子(京都大学): 物語としてのヴァザーリ『芸術家列伝』 —「ミケランジェロ伝」システーナ礼拝堂天井画成立をめぐる記述を中心に—	
17:50～18:20		中嶋康太(慶應義塾大学): ウィリアム・ブレイク《日の老いたるもの》における円環の象徴表現 一負の側面を象徴する太陽との関連性を中心に—	
	馬場有里子(エリザベト音楽大学)	松原知生(西南学院大学)	